

読書活動を通してすべての子どもたちに「人生をより深く生きる力を」

～本巢市ジュニア司書活動による読書に対する関心の高まり～

本巢市教育委員会社会教育課

1. 第三次本巢市子どもの読書活動推進計画の策定

本市では、未来を担うすべての子どもが、自主的な読書活動により人生をより深く生きる力を身につけることができるよう、平成 30 年 3 月「第三次本巢市子どもの読書活動推進計画」を策定し、家庭、学校等、地域が連携して、子どもの読書活動の推進と環境の整備を図っています。

2. 子どもの読書習慣定着への働きかけ

子どもに、生涯を通じた読書習慣を定着させていくためには、子どものすべての成長過程ごとに年齢層に応じた適切な働きかけを充実させる必要があります。

本市では、以下のとおり、子どもの発達段階に応じた読書の機会の提供や支援を行っています。

乳児期	幼児期	小学期	中学期
ブックスタート 赤ちゃん教室で 絵本 2 冊をプレゼントし、 本との出会いを演出	にこにこバッグ 年齢別に選書した 絵本セットの貸出しにより、 家庭での読み聞かせを充実	一斉読書 日常的な読書活動による読書習慣の定着を図る	
読み聞かせ・おはなし会 年齢や場所に応じて選書した絵本の読み聞かせにより、絵本の世界を共有		図書館と学校の連携 読書の多様な楽しみ方を広げる	
		ジュニア司書 読書の魅力を発信する	
読書通帳 読書の履歴を残し、豊かな読書体験を積み立て		 図書の貸出記録を記帳する預貯金通帳型の手帳。本巢市出身絵本作家かつらこさんによるデザインを採用。令和元年度導入	

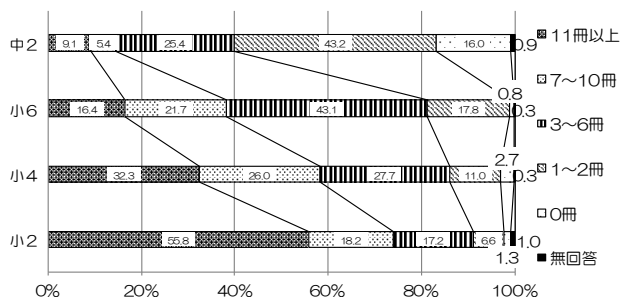
3. 中高生の読書量の向上を目指して

近年、情報メディアの普及や子どもの生活環境の変化により、子どもの読書離れが指摘されています。

下のグラフからも分かるように、本市においても、小学生の読書量は多いものの、中学生では読書量が減少しています。こうした中学生の実態を受け、読書への関心を高めるために、大人との関係よりも友人との関わりが強くなるという世代の特性を活かし、司書として図書に関わることにより、自らの読書への関心を高め、友人や同世代へ読書の魅力を主体的に発信できる本巢市ジュニア司書の取組を開始しました。

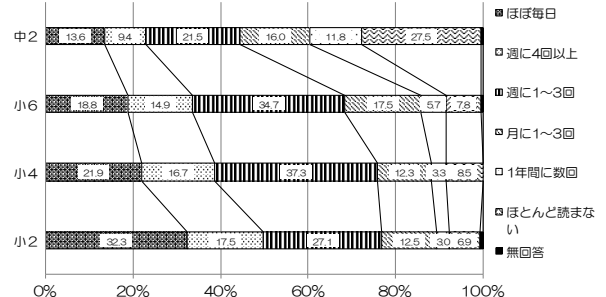
▼本巢市教育委員会調べ「子どもの読書量に関する調査」(平成 29 年)

(1) 1 か月の読書量



小学校低学年が最も多く、74%の子が1か月に7冊以上読書をしています。80%以上の小学生が1か月に3冊以上読書するのに対し、中学生は40%にとどまっています。また中学生の16%が1冊も読んでいないと回答しています。

(2) 家庭での読書量



68%以上の小学生が1週間に1回以上家庭での読書をするのに対し、中学生は44.5%にとどまっています。また家庭でほとんど読書をしていない小学生は8.5%以下であるのに対し、中学生は27.5%です。

4. ジュニア司書による本の魅力を伝える活動

令和元年度4月から8月の間に実施した本巣市ジュニア司書養成講座では、市内小学5年生から中学3年生までの77名が全6回の講座を受講しました。養成講座では、本市図書館司書や図書館で活躍する地域のボランティアを講師におかれ、図書館の仕組みや司書の仕事を理解し、本の魅力を伝える方法を学びました。

また、岐阜市立中央図書館及び関市立図書館の協力をいただき、市外の図書館視察を実施しました。市外の図書館長や図書司書から直接、図書館の取組や読書活動を聞き、規模や配架方法が異なる図書館を体験することで、自分の街の魅力ある図書館づくりについて考える機会となりました。

ジュニア司書認定後は、グループに分かれ、しんせいほんの森を拠点に、人権週間に合わせた「人権について考える本」の展示や新しく館内に設置した「ジュニア司書書架」の配架など、幅広い読書の楽しみを発信しました。

読み聞かせサポーターによる「子どものためのおはなし会」では、工作コーナーに参加した小さな子どもへ積極的に話しかけたり、親子へ読書通帳を勧めたりするなど、参加した親子がもっと絵本に親しむことができる雰囲気づくりを心がけていました。また、当日は図書の貸出しが多く、カウンター業務や配架などの司書補助にあたるなど自主的に活動する姿が見られました。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ジュニア司書養成講座は開催を中止しましたが、昨年度誕生したジュニア司書1期生は、広報もとすにおいてお勧め図書の紹介や、季節や社会の状況に合わせた企画展示など、自分のペースに合わせて活動しています。



カウンターの仕事は、笑顔で挨拶をしたり、言葉遣いに注意したりすることが大切だと分かり、気を遣うけれど、来館者と交流ができて楽しいです。

(小学6年生)



読み手のことを考え、いかに分かりやすく、興味をもってもらえるか大切にしてきました。

自分たちが情報を発信するときに、伝える目的と相手を考えることで、自分の表現が大きく変わるものだと思います。

しんせいほんの森図書館司書や絵本作家かつらこさんからお話を聞いて、どちらも「本を読む喜びがやりがいにつながる」ところが共通していると分かりました。「相手の幸せが自分の仕事のやりがいになる」思いを大切にしたいです。

5. 今後の課題

本市のジュニア司書の取組は、友達や地域の人へ読書の魅力を伝えるという他者への働きかけだけでなく、読書が好きな子どもが、自分の得意分野を活かして、思う存分読書の世界に浸り、読書の楽しさを人に伝える力を身につけるという個人の才能の伸長も目指しています。

今後、ジュニア司書自身が、読書に対する思いを大切にしながら、友人や来館者がより読書を楽しむための方法や、自分で定めた目標に向けた主体的な活動が実践できるよう、図書館司書や地域ボランティアと協働した活動支援と、ジュニア司書の活躍の場を、地域の図書館だけにとどまらせないよう学校図書館との連携を強化していきます。